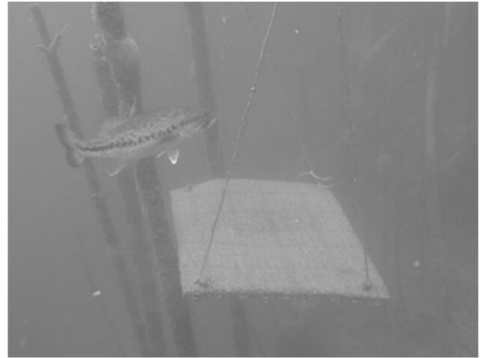


苫田ダムにおけるオオクチバス管理の現状

○笹田直樹・佐貫方城・白神義章（株式会社ウエスコ）・中井克樹（滋賀県立琵琶湖博物館）

岡山県北部に位置する苫田ダム（奥津湖）では、オオクチバス *Micropterus salmoides* の繁殖を抑制するために約10年間の調査、研究、駆除作業が実施されている。現地を確認されたオオクチバスの繁殖に係わる環境要因（底質、カバー構造、水循環など6要因）を重ね合わせた繁殖ポテンシャルマップにより繁殖に好適な箇所を抽出して、適宜、努力を集中させながら、吊下げ式人工産卵装置(右写真)による親魚の誘導と卵の駆除、スノーケリングによる自然産卵床の発見、破壊による繁殖の抑制、未成魚～成魚の捕獲等を行ってきた。



その結果、平成20（2008）年には奥津湖のほぼ全域に分布していたオオクチバスは、現在では容易に確認することが困難な状況となっており、平成27（2015）年度に実施されたダム湖版の河川水辺の国勢調査による調査手法ではオオクチバスが確認されない程度にまで低密度となっている。また、ダム管理所が継続している繁殖期に限定した駆除作業においても、平成28（2016）年度の調査では自然

産卵床の確認は無く、繁殖ポテンシャルがあまり高くない場所で自然繁殖したと推定される仔魚が2箇所を確認されたのみであった。水の透明度が3m以上という目視のための好条件下で、オオクチバスの繁殖どころか、成魚を発見することが難しい状況になっていた。平成29（2017）年度の繁殖期の調査においても、確認された個体数は少ない状況を継続しており、いわゆる‘低密度管理’という状態が概ね維持されていると考えている。

今回の発表では、低密度管理から完全防除へ移行するための技術として注目されているフェロモントラップによる雌親魚の誘導の試行、流域単位での協力体制の構築という少しハードルが高い課題と、吊下げ式産卵装置にオオクチバス以外の魚類が産卵した事例、繁殖期の雌親魚の駆除方法、投網による親から独立後間もない幼魚の捕獲方法など、他の水域でも活用しやすい情報を提供させていただきたい。

なお、本報告は、国土交通省苫田ダム管理所が実施している作業報告書の抜粋である。情報の公表についてご理解を頂いたことについて、この場をお借りして感謝の意を申し上げます。